

**適切な管理で暑さに打ち勝ち、収量と品質の両立を！**  
**目標：コシヒカリ収量480kg/10a以上、1等級比率90%以上**

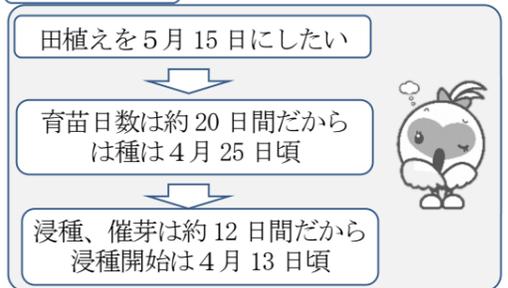
**1 令和8年の栽培の重要ポイント ～適期移植・適正な植え付け・生育調節と後期栄養確保で収量と品質の両立！～**

<p><b>①コシヒカリの適期移植</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平坦地のコシヒカリでは、出穂期の高温のリスクを少しでも下げため5月15日頃の田植えの実施</li> </ul>	<p><b>②適期中干し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標穂数の7～8割確保したら中干しを開始</li> <li>田植え25日後に茎数を確認し、遅くとも田植え30日後には開始</li> </ul>	<p><b>③中干し後の気象に対応した水管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中干し終了後、穂肥まで干しすぎず、こまめに水管理を行う</li> <li>高温時はこまめな水管理</li> </ul>	<p><b>④後期栄養確保を目的とした穂肥対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1回目は生育診断に基づく施用、2回目は確実な実施</li> <li>必要に応じた追加穂肥の施用</li> </ul>	<p><b>⑤適期収穫・適正調製</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黄化割合 85～90%での収穫開始</li> <li>高温登熟年は刈り遅れないように収穫</li> <li>適正流量で丁寧な調製</li> </ul>	<p><b>⑥土づくりと根域の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケイ酸質資材や含鉄資材、堆肥等の施用</li> <li>耕深15cmの確保による根域の拡大</li> </ul>
--	---	---	---	---	---

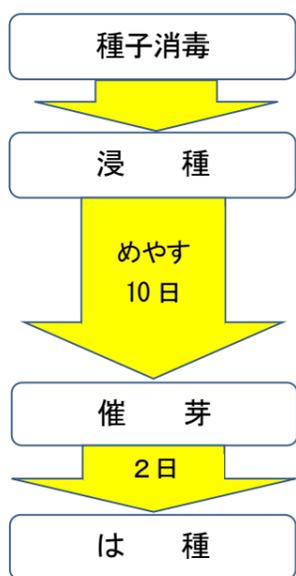
**2 作業計画の検討 ～適期の田植えで出穂期の高温影響回避～**

- 最初に田植えの時期を決め、逆算して作業開始日を決めましょう。
- 近年は育苗期間中が高温で推移することが多く、徒長苗や老化苗になりがちです。そのため、初期の茎数確保が難しくなっています。育苗期間が長くなりすぎないように作業計画を立てましょう。
- 田植え時期は、早生品種は5月上旬、平坦地のコシヒカリは5月15日頃がめやすです。
- 田植えが遅くなる場合は、気温が高くなり苗の育ちが早くなるので、育苗期間を短くします。

作業計画の例



**3 種子の準備・は種作業**



・温湯消毒の場合、褐条病やばか苗病の対策としてタフブロックとの体系防除を行います。

褐条病やばか苗病の対策 → 温湯消毒 + タフブロック

・浸種水温は10～15℃（10℃未満では発芽不良となり、水温が高いと浸種ムラが生じやすく浸種中の発芽が心配されます）。  
 ・今年のコシヒカリBL種子は休眠が深いと推定されることから、芽揃いを良くするため、浸種水温12℃で積算水温120℃をめやすとしましょう。なお、その他品種は浸種水温10～15℃で積算水温100℃がめやすです。  
 ・雑菌が繁殖しやすいため、2～3日に1回、水を交換しましょう（特に温湯消毒は注意！）。

10～15℃ 2～3日に1回水交換

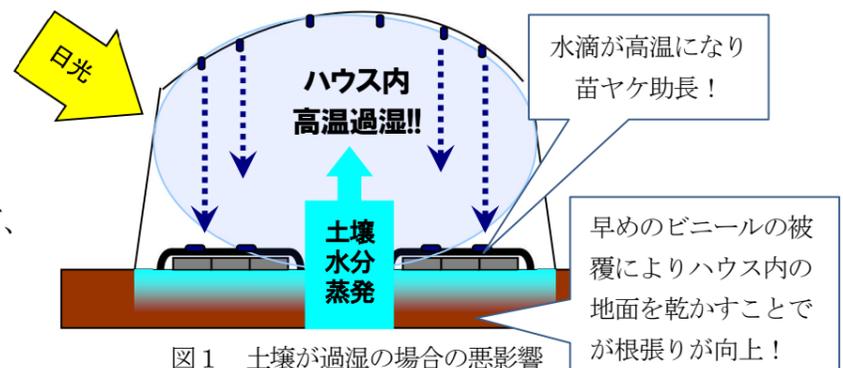
・30℃、1～2日をめやすに行いましょう。  
 ・ハトムネ状態の粃が80%になったら終了しましょう。

・は種量は1箱当たり乾粃で130～140gとしましょう（浸種粃で160～175g）。  
 ・細菌性病害発生防止のため、カスミン液剤による防除を実施しましょう。

スケジュール (めやす) (コシヒカリ5月15日田植えの場合)		
育苗ハウス		露地プール
加温出芽	無加温出芽	加温出芽
4月13日	4月10日	4月10日
4月23日	4月20日	4月20日
4月25日	4月22日	4月22日

**4 育苗場所の準備 ～育苗の成功は環境づくりから～**

- 育苗場所はできる限り平らにしましょう（箱内の水分ムラの防止）。特にプール育苗では、水深差が生じると、生育がばらつきます。
- 育苗ハウス内が過湿だと、苗ヤケや根張り不良の原因になります（図1）。苗を入れる1週間以上前にビニールを被覆する、ハウス周りに明きよを作るなど、ハウス内の過湿を防止しましょう。
- 高温年には苗の徒長や苗ヤケが起きやすいので、換気を徹底しましょう。



**5 春の土づくり ～土壌分析に基づき、不足成分を補いましょう～**

- 土壌分析に基づき必要な土づくり肥料を施用することで、生育が改善されます。分析については、いつでもひすい営農センターにご相談ください。
- 土壌分析を行っていない場合は、『ケイ酸』や『鉄』が入った資材がおすすめです。

ケイ酸：根の吸水力向上、倒伏軽減、高温時に乳白粒や着色粒低減の効果  
 鉄：根の障害軽減、生育改善効果、糸魚川では不足気味のほ場が多い

表1 土づくり資材施用例

資材名	施肥量 (10a当たり)	備考
マイ越後の輝きソイル米スター	30kg	ケイ酸：30% カリ：7%
マイアイアン米スター	60～100kg	ケイ酸：20% 鉄：30%

『収量・品質向上！糸魚川産米』 「コシヒカリBLエコライス栽培」に取り組みましょう。	お問い合わせ先	JAえちご上越ひすい営農センター TEL 0120-640-184
		糸魚川NOSA Iセンター TEL 0120-916-406
		糸魚川地域振興局農林振興部 TEL 553-1906 (農業普及指導センター)